

北越戯譜

一 正月さまのうた

しょうがつはどこまでだ
あんぜんじのこしまでだ
なんとなんがみやげだ
えきのようなまんまに
べにのようなととに
あぶらのようなさけに
えがきはごいた
かものはねのもくれんじゅ
はごいたつえにして
もくれんじゅをかささして
よいよいとござったござったござった

二 あそびうた

ひふみよ
いつものあねさんが
きねでもちついて
じゅうでくばって
はしでとってくって
うまかったうまかった

三 まりつきうた

(1)

もんだやアもんだやア
一ちよめのもんだやア
二ちよめのもんだやア
三ちよめのもんだやア
四ちよめのもんだやア
五ちよめのもんだやア
六ちよめのもんだやア
七ちよめのもんだやア
八ちよめのもんだやア
九ちよめのもんだやア
十ちよめのもんだやア

(2)

しそれしそれ
一ちよめのしそれ
二ちよめのしそれ
三ちよめのしそれ
四ちよめのしそれ
五ちよめのしそれ
六ちよめのしそれ

七ちよめのしそれ

八ちよめのしそれ

九ちよめのしそれ

十ちよめのしそれ

(3)

つかみつかみ

一ちよめのつかみ

二ちよめのつかみ

三ちよめのつかみ

四ちよめのつかみ

五ちよめのつかみ

六ちよめのつかみ

七ちよめのつかみ

八ちよめのつかみ

九ちよめのつかみ

十ちよめのつかみ

(4)

まわしまわし

一ちよめのまわし

二ちよめのまわし

三ちよめのまわし

四ちよめのまわし

五ちよめのまわし

六ちよめのまわし

七ちよめのまわし

八ちよめのまわし

九ちよめのまわし

十ちよめのまわし

(5)

おまんがかんざしささらば

ささしてさっさとせ

(6)

にようぼがあれども

てなしのにようぼでしかたがねエ

(7)

たらんぼさんのながばおり

したててきるときゃよけれども

しちやへやるときゃあいそがねエ

しちこまこまげたしよなしよなど(はしよかけて)

そのはしおつながわたりぞめ

(8)

ひふみよいつむななやこことう

ちょうど一っかんかしました

四 お手玉うた

おひとつおろしておっさらい

おふたつおろしておっさらい

おいみつおろしておっさらい

おいよつおろしておっさらい

おいつつおろしておっさらい

おみんなおっさらい

おてあげおてあげおろしておっさらい

おつかみおつかみおろしておっさらい

おはさみおはさみおろしておっさらい

らっきょらっきょらっきょおろしておっさらい

こはしこぐれおおはしこぐれおっさらい

おまわしおまわしおろしておっさらい

おきんだよだよだよだんよだよ

ながしてしまよせさらりとどうしておっさらい

五 お手玉、羽根つき

ひとよふたよ

みわたしゃよめご

いつきてみても

ななこのおびよ
やのじにむすんで
ここのめにとついた

六 鳥追いうた(一)

とりおいだとりおいだ
あれはどこのとりおいだ
だいろうどんのとりおいだ
なにもっておってきた
しばもっておってきた
どっからどこまでおってきた
しばのこもこばのこも
たちあがれや ホイホイ

七 鳥追いうた(二)

このとりどこからおってきた
しなののくにかからおってきた
なんでもっておってきた
しばぬいでおってきた
かやぬいでおってきた
すずめすわどりたちあがれ
ホイホイ ホンヤラホーイ

八 鳥追いうた(三)

じろべどんのとりと

たろべどんのとりと

しりきってかしらきって

さどがしまへ

ホワイ ホワイ

九 もっくらもちのうた

もっくらもちゃどこいった

うちにかそとにかがんぎにか

そこらにいたならかつぶせかつぶせ

十 わら鉄砲

とうかやのわらでっぼう

そばくっちゃままくっちゃ

(ままくっちゃそばくっちゃ)

ぽーんとせぽーんとせ

十一 ふうせんつきうた

わたした うけとった
もっともだいじなむすめのこ
からいとさんぼにはりさんぼ
むこうがわらの(タナカ)(ミナガワ)さんに
わたしたいの

大の阪

だい さか
大の阪 (ヤーレ) 七曲り駒を
(ハア ヤレソリヤ) よくめせ旦那様
よくめせ駒を な む さいほう 南無西方
よくめせ旦那様

[以下囃しことば省略]

ちよう
てんま町の橋に寝て笠をとられた、川風に
とられた笠を 南無西方
とられた 川風に

さんさい
三歳鹿毛の駒、江戸で値がする、八両する
値がする江戸で 南無西方
値がする 八両する

十三で糸をとれば、糸はほそらで身が細る

糸はほそらで 南無西方

ほそらで 身が細る

お山の^{さが}下り藤、花は咲けども実はならぬ

花は咲けども 南無西方

咲けども 実はならぬ

油屋の油火は、細うて^{なが}長うてとろとろと

細うて長うて 南無西方

長うて とろとろと